

かるがも



第33号

発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
<http://www.kodomo.umin.jp/>



病院長 伊達裕昭



新年のご挨拶

平成25年新春のご挨拶を申し上げます。

皆さまにはお変わりなく新年をお迎えになられたでしょうか。昨年は12月に入り急に寒さが厳しくなり、年末年始も各地で最低温度の更新や大雪のニュースが目につきました。こうした冬らしい冷え込みに加えて、ノロウイルスなど感染性の胃腸炎の流行やインフルエンザの拡がりも全国的です。特に小さなお子さま、ご老人のいらっしゃるご家庭では、この時期のご家族の体調維持にご注意下さい。

今年は十二支では「巳」年です。干支の動物としてはヘビが充てられていますが、原字は頭と身体ができかけた胎児を描いたもので、子宮が胎児を包むさまを表す「包」の中と同じだそうです。「漢書」によれば、草木の生長が極限に達して次の生命が作られ始める時期を示すとされています。



胎児つながりでいえば、昨年は当院に産科病棟を入れた周産期センターが竣工し、母体内で判明した胎児期からの疾病に対して、産科から新生児科および担当診療科へと、妊娠中からの切れ目ない継続した診療とご家族への相談支援を提供する体制が整いました。産科医の確保などに困難な状況があり、昨年は持てる機能の一部分しか稼働できませんでした。胎児期を表すという「巳」年に因み、今年は新しい周産期機能にも生命が吹き込まれ、ご期待に添う活動が展開できるように関係機関との協力、連携に努めます。



平成25年の夜明け（片貝海岸）

そして今年が本院が開設されて25年目の年でもあります。この間に病院は成長を続け、来院される患者さまの数も院内で働く職員数も、そして提供する医療内容そのものも開院当初の想定を大きく超える規模になり、成熟期を迎えています。その一方で、昨年の秋に実施した「患者さま満足度調査」（後日、その結果詳細は院内に掲示する予定）では、トイレや面会スペースを始めとする院内設備・環境面で、来院される皆さまの満足度が低いことが明らかになりました。日々のご意見でも、施設整備についての要望が少

なくありません。この25年間、医療機器や診療内容については医学の進歩に合わせて見直しと改善を繰り返してきました。しかし、病院の構造・設備が診療機能の拡大に併せて効率良く快適に利用していただけよう変化できているかどうかについても、見直しを行う時期に入ったことを感じています。

昨年末に発生した中央高速道の笹子トンネルの天井崩落事故は、東日本大震災に引き続き、改めて日常に潜む危機と建造物の老朽化・安全点検の重要性について考えさせられる不幸な出来事でした。本院も震災後の構造劣化を含めた建物調査を行うと同時に、病院機能を快適に受けていただくための部分的な補修、改修計画の策定に着手しようと考えています。ヘビのように脱皮して新しい病院へと生まれ変わることは当分のあいだ不可能でも、運用面の見直しと構造の改変を組み合わせることで来院される皆さまにより満足いただける病院になれるよう、職員一同で知恵を絞ります。

明るい話題が少なかった中では、昨年度のノーベル医学生理学賞に京都大学の山中教授が選ばれたことは特筆すべきニュースでした。機能的に分化してしまった成熟細胞は受精細胞が持っていたいろいろな組織・器官に成長する多能性を失う、というのが従来の医学上の通説でした。教授は、たとえ成熟した体細胞でも遺伝子操作を用いて初期化することで再び多能性を持つ細胞（iPS細胞：人工多能性幹細胞）が作成できる事実を発見し、再生医療への応用の道を大きく拓きました。病院も組織として成熟してしまい、機能面で新たな要求に対応できないと思っても、iPS細胞を作成する際の遺伝子注入に匹敵するアイデアで、変化する要請にも応えられる新たな病院に生まれ変わることであれば良いがなあ・・・、そんなたわいもない夢を新年に描いてしまいました。

年頭に当たり、今年が皆さまにとりまして平穏な一年となりますよう祈念するとともに、旧年に変わらぬ本院へのご支援とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成25年1月